

令和元年度 県立芦屋国際中等教育学校 学校評価シート(年度末評価)

<p>【教育の特徴】 一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通じて、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校として、教育活動を展開する。</p> <p>【学校教育目標】 (1) 言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きる人間形成を図る。 (2) 個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身につけ、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。 (3) コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。</p> <p>【学校経営の重点】 (1) 個に応じたきめ細かな支援 ① 自己実現への支援 自己の出身国や滞在国外等の言語・文化を探求するなど、自尊感情や自己肯定感をはぐくむ学習活動を取り入れるとともに、豊かな共生の心を培い、自己実現に向けた支援を行う。 ② 弾力的で多様なカリキュラム編成と学習支援 少人数指導や個別指導など、6年間を通じた弾力的で系統的なカリキュラム編成を行い、日本語や日本文化の理解の程度、海外で身につけた語学力や教科内容の理解度等に合わせた、個に応じた学習支援を行う。また、ICTの活用や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。</p>	<p>③ 主体的な進路実現への支援 中高一貫校の強みを生かした、トライやるウィークからトライやるワークにつながる体系的なキャリア教育を充実させ、キャリアガイダンス機能を向上し、生徒の主体的な進路実現を支援する。また、様々な語学に関する資格試験に対応した学習指導を行うなど、生徒の個性を生かした資格取得を支援し、後期課程においては取得した資格を単位認定するなど、生徒の達成感や充実感を引き出し、主体的な進路実現への意識を高める。</p> <p>④ 心の教育の推進 道徳教育、人権教育、特別支援教育を計画的に推進するとともに、組織的な教育相談・カウンセリング機能を向上させる。また、生徒や保護者の悩みに寄り添い、学校と保護者が連携して命を大切に「心の教育」の充実を図る。</p> <p>⑤ 交流活動の推進 他の教育機関や国際交流協会、国際協力機構(JICA)などの関係機関等との連携・交流を図り、多様な学習環境を創造する。</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進 学校の教育目標や指導計画、日々の教育活動の様子を積極的に発信し、学校や地域の課題を保護者・地域住民と共有するとともに、協働と連携を図りながら、保護者・地域に信頼される教育活動を推進する。</p> <p>(3) 働き方改革の推進 留守番電話の適切な運用、学校閉庁日の実施をはじめとした取組により、長時間勤務の削減に努力する。</p>
--	--

【本年度の重点項目】

	領域	重点目標	中間評価			成果・改善点	年度末評価			評価	学校関係者評価・意見
			点	割合	評価点平均(昨年度)		点	割合	評価点平均(昨年度末)		
1	授業力の向上と学習指導の充実	各授業時(間)の目標を明確に示すなど、創意工夫した授業の実践に努める。	5	20.0%	3.3(3.4)	・毎授業の開始時に、目的、目標、取り組みを生徒に示した。 ・目標をカードにして、黒板に貼り、提示した。 ・学習する内容で、どんな力が身につくのかを伝え、授業を行った。 ・学習プリントを配付し、学習する内容や目標を明確に示している。	5	23.5%	3.6(3.4)	B	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年の評価は全体的に高くなっているが、授業改善の項目が低くなっている。 中間評価時点からさらに努力した結果が現れている。 学校としては、良い傾向である。 「授業力の向上と学習指導の充実」の重点目標「公開授業・研究授業を行うなど、教職員間で協働し、授業改善に努める。」の項目のポイントが上がっている。とてもいい傾向だ。記述箇所から、教師間で、お互いの授業を見学し、アドバイスをし合う雰囲気が出てきていることが伺える。今後も、中堅教員が若手教員を育てる環境作りを推進してほしい。 専門部の業務評価が全体的にポイントが上がっている。「進路指導」が大きく向上しており、教師が一人一人の生徒に応じたきめ細やかな進路指導を実践していることがわかる。
			4	37.1%			4	47.1%			
			2	42.9%			2	29.4%			
			1	0%			1	0.0%			
		教師からの一方通行の授業ではなく、生徒の活動を重視した授業を取り入れる。	5	5.7%	3.3(3.3)	・常に発問し、生徒に考えさせ、発言させる機会を増やすなど、工夫した。 ・グループ討議や発表会などをできるだけ多く行った。 ・習熟度編成のグループに応じた指導や活動を心がけた。 ・ワークシートを工夫し、生徒が話し合う時間を多く取った。	5	14.7%	3.6(3.4)	B	
			4	57.1%			4	55.9%			
			2	31.4%			2	29.4%			
			1	5.7%			1	0.0%			
		前期と後期のつながりだけでなく、長期的な展望を持って、授業を計画し、実践する。	5	12.1%	3.2(3.2)	・後期課程を担当している教員と連携しながら授業を行った。 ・前期課程において、後期課程の学習の導入を行った。 ・大学入試の傾向を分析し、前期課程のうちに学習しておくべきことを考えて、授業を進めた。 ・前期課程の教科書を参照し、既習事項を確認しながら、基礎力を踏まえて、応用力をつけるように心がけた。	5	18.2%	3.8(3.4)	B	
			4	42.4%			4	60.6%			
			2	45.5%			2	21.2%			
			1	0%			1	0.0%			
生徒の習熟度・到達度を意識し、分かる授業、意欲を高める授業の実施に努める。	5	17.1%	3.4(3.2)	・生徒の習熟度にあつた教材作りに努めた。 ・体験に基づく指導を取り入れた。 ・小テストをこまめに行い、理解度をチェックした。また、理解するまで何度も繰り返し、取り組ませた。 ・教材を工夫し、映像を多く利用し、理解を深められるよう配慮した。	5	14.7%	3.6(3.4)	B			
	4	45.7%			4	58.8%					
	2	37.1%			2	26.5%					
	1	0%			1	0.0%					
公開授業・研究授業を行うなど、教職員間で協働し、授業改善に努める。	5	5.9%	2.8(2.2)	・共通の教材などを作って、協力し、教材データの保存、実験方法の共有を行った。 ・積極的に研究授業を行った。 ・教科会で、指導案を用いた研修を行い、授業改善に務めた。 ・教職員間で、授業に関して相談し、アドバイスがあった。	5	15.2%	2.8(2.5)	C			
	4	32.4%			4	21.2%					
	2	55.9%			2	51.5%					
	1	5.9%			1	12.1%					
2	情報発信とコミュニケーションの充実	必要な情報を事前に、関係者、及び関係機関に知らせる。	5	6.2%	3.1(3.4)	・外国語講師の通訳のおかげで、生徒だけでなく、保護者とも十分なコミュにケーションがとれた。 ・学年通信を通じて、これまでの取組や今後の予定を伝えられた。 ・生徒に対しても保護者に対しても十分に説明し、連携を図るようにしている。 ・行事ごとに実施している。	5	13.8%	3.3(2.9)	B	<ul style="list-style-type: none"> 「日本語指導」がポイントを上げている。日本語教育の職員研修も行われており、今後も職員が一丸となって、日本語指導の必要な生徒をサポートしてほしい。 6年次生の保護者アンケートから、多文化共生の精神を柱とする本校の教育活動に満足していることがわかる。「本校で学ばせて良かった」の項目で、保護者の大多数は「思う」と回答しているが、1名の生徒が「思わない」と回答しているのがとても気になる。ただ、一般の学校では見られない高い評価である。これからも本校の特性を活かし、生徒や保護者のニーズに応えていってほしい。 6年次生の生徒アンケートで、「自分の力で、自分のスピードで向き合えてよかった。」というコメントがあった。これは、芦屋の良いところだと思う。
			4	46.5%			4	46.3%			
			2	41.9%			2	37.4%			
			1	5.4%			1	2.4%			
		取り組みに関する説明を十分に行い、説明責任を果たす。	5	2.4%	2.9(3.1)	・外国語講師と十分なコミュニケーションを取り、生徒への意思疎通を行った。 ・配布物は、配布前に、目的、内容を説明し、配付している。 ・学年通信をもっと意欲的に発行したい。 ・外国語講師の先生がよく保護者と連絡を取ってくれたので、助かった。	5	10.8%	3.2(2.9)	B	
			4	43.1%			4	45.8%			
			2	50.4%			2	40.8%			
			1	4.1%			1	2.5%			
		積極的なコミュニケーションを図り、生徒、保護者、地域等関係機関と連携する。	5	8.1%	2.9(3.2)	・生徒や保護者とじっくり時間をかけて、相談する機会を持った。 ・行事やイベントごとに感想を提出させ、生徒の考えを把握することに努めた。 ・保護者とよく連携がとれ、十分なコミュニケーションがとれた。 ・授業中や放課後に生徒の意見や話を聞くことを積極的に心がけた。	5	9.4%	3.2(3.0)	B	
			4	35.5%			4	48.7%			
			2	50.8%			2	39.3%			
			1	5.6%			1	2.6%			
結果・成果の通知、学校の情報等を外部へ発信する。	5	1.7%	2.7(3.0)	・定期的に学年通信を発行し、できるだけ多くの情報を発信することができた。 ・学年通信の発行回数を増やしたい。 ・行事の内容、結果や授業の成果などを発信できた。 ・部活動の成果等の横断幕を校門横に掲げ広報した。	5	9.2%	3.1(2.9)	B			
	4	35.5%			4	42.9%					
	2	55.4%			2	44.5%					
	1	7.4%			1	3.4%					

【専門部の業務評価】

(1)総務部			
項目	平均	評価	
企画・運営	4.6(4.2)	A	
入学者選考等	4.2(4.0)	A	
渉外・PTCA・他校等	4.0(3.7)	A	
広報	4.0(4.0)	A	
国際交流	3.7(3.7)	B	
防災	3.3(3.3)	B	
庶務	3.0(3.4)	B	
データ整理・管理	3.0(3.0)	B	

(2) 学習支援部							
教務	項目	平均	評価	進路指導	項目	平均	評価
					教育課程等	3.8(4.0)	B
時間割	3.8(4.5)	B	体験学習	3.1(3.3)	B		
学籍	3.7(3.5)	B	総合的な学習の時間	3.0(3.0)	B		
調査・統計	4.2(4.3)	A	図書	項目	平均	評価	
教科書・教材	3.4(3.4)	B	図書の選定・紹介	3.5(3.3)	B		
新入生テスト	3.0(3.0)	B	図書の貸出	3.0(3.0)	B		
学習状況調査・授業評価	5.0(5.0)	A	日本語教育	項目	平均	評価	
全国学力・学習状況調査	5.0(5.0)	A	日本語指導	3.6(3.6)	B		
定期考査・データ処理	4.0(5.0)	A	日本語研究	3.9(3.7)	B		

(3) 生活支援部							
生徒指導	項目	平均	評価	保健	項目	平均	評価
						生徒指導全般	4.0(3.9)
生徒会活動	3.8(4.0)	B	教育環境整備	3.7(3.3)	B		
特別支援教育・教育相談	4.3(3.5)	A	人権・道徳	項目	平均	評価	
安全指導	3.7(3.7)	B	人権教育	3.5(3.5)	B		
庶務	4.0(4.0)	A	道徳教育	3.7(3.3)	B		
式場準備	4.0(4.0)	A	ネット	項目	平均	評価	
関係機関等との連携	4.0(4.0)	A	管	ネットワーク管理	4.7(4.7)	A	
部活動	3.8(4.0)	B					
特別指導	4.0(4.0)	A					

＜学校評価の改善について＞	
平成23年度の学校評議員会での協議を受けて平成24年度より学校評価を以下の通り改善し、今年度も継続している。	
(1) 学校評価の評価項目	評価項目を減らし、重点目標に係る項目のみとする。
(2) 部署ごとの取り組み	担当業務について個々の業務内容について評価を行った後、合算して評価する。
(3) 学校評議員会・学校関係者評価委員会では、重点目標に係る評価のみを協議し、部署ごとの取り組みについては、報告とする。(ただし、著しく評価の低いものについては、次年度の重点項目の一つとして協議する。)	
(4) 年度末の学校評価シートについては、重点目標と部署ごとの項目の評価を記載する。	

